

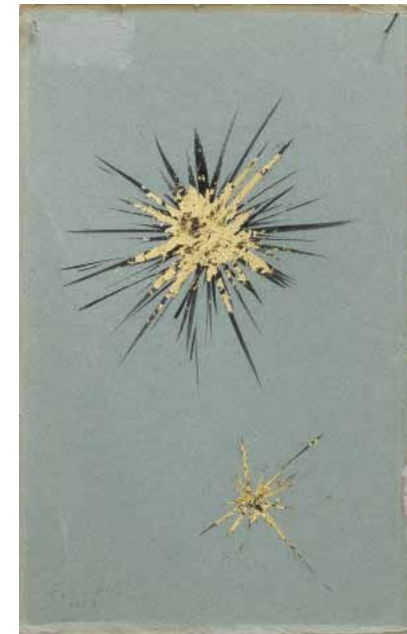
空とカタツムリ
The Sky and The Snail



占部史人
Fumito Urabe

そら
空とカタツムリ

しまじま しんわ
～島々の神話をもとにしたワークショップ～



うらべふみと
占部史人

目次 もくじ

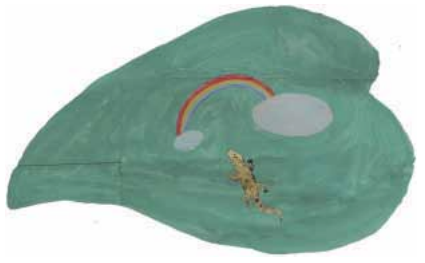
はじめに ————— 1

海 うみのはじまり ————— 3

グアム ————— 5

アボリジニーの創世 そうせいしんわ神話 ————— 7

空 そらとカタツムリ ————— 9



はじめに

今からずっと遠い昔、はるか南の海に大きな陸地があったと言われています。その大陸にはたくさんの人々が暮らしていましたが、ある日洪水が来て深い海の底に沈んでしまいました。人々は船に乗ってかろうじて残された島々に移り住みました。

人々は神話によって自然の美しさや恐ろしさ、この世界の不思議、人間のあり方を語り継いできました。神話はやがて海を渡って台湾や韓国や日本にも伝わりました。今生きている私たちにもつながっているのです。

今日は神話の世界にいる動物や生き物たちをもういちどこの世界に蘇らせてみましょう。材料は海を漂って砂浜に流れついたものや、拾い集めたもの、時を経たものなどを使いましょう。それらの素材は、まるでこの広い世界の中を漂ってきた旅人のようです。私たちも世界中を漂ってここにやってきた人々の末裔です。

素材のひとつひとつはとても小さなものですが、とても大きな世界をもっています。私たちひとりひとりと同じように。

それでは、今から神話の世界に入っていきます。

二〇一七年三月十二日(日)
占部 史人

* 神話・・・古くから言い伝えられてきた、世界のはじまりや、どうやって人間や宇宙、自然や動植物がつけられたかを、神様や英雄などをまじえて説明するおはなし

* 末裔・・・ずっと昔から、何代にも渡って今に続く、人々のつながりのこと

海のはじまり

まだ、世界に海がなかったころのことです。ひとりのおばあさんがふたりの孫といっしょにくらしていました。孫はふたりとも男の子でした。

家のうらてには、アシでつくったかこいがあり、おばあさんはつねづね、少年たちに、「この中にはいつてはいけない。」と、いましめておりました。囲いの中には、大きなサトイモの葉が一まいあり、おばあさんはこのサトイモの葉の中で水をつくっていたのです。

その日も、おばあさんは、

「わたしは、これから畑へいくが、るすのあいだ、かこいの中にはいつてはいけないよ。」
といいおいて、でかけていきました。

少年たちは、いつものように、ふたりなかよく弓でトカゲをうつてあそんでいました。そのうちにひとりが、

「ねえ、おばあさんはいつもあのかこいの中にはいつてはいけないといってるけど、いったいながあるんだろう。見てみたいね。」

というと、もうひとりもすぐに、

「うん。いつてみようよ。」
とさんせいしました。

ふたりは、アシのかこいの中にはいつていきました。

「なあんだ、サトイモの葉があるだけか。」

少年たちは、がっかりしました。そのとき、サトイモの葉にトカゲがとまっているのが目にはいりました。ふたりはすかさず、ピュッと矢をはなしました。ところが矢がはずれ、サトイモの葉にささって、あなをあけてしまったのです。

さあ、たいへん！葉の中から、ものすごい音をたてて、水がこぼれました。ゴウゴウと天地をゆりうごかすほどの音で、かこいの中にたまっていきます。畑でしごとをしていたおばあさんは、この音をきくと立ちあがって、

「ホロダリブル、ホロダリブル！ダリウレ、ダリウレ！（あまねく、そそげ、世界中に！）」
と、さげびました。すると、みるみるうちにかこいから水があふれでて、おばあさんの家といわず、畑といわずのみこみしました。それでも水はとまらず、あふれつづけ、全世界にまんまんとひろがっていきました。

こうして、世界の海ができあがったのです。おばあさんとふたりの孫がすんでいたところは、いまのレパース島だということです。

採話Ⅱヴァヌア・アヴァ島Ⅰ

* いましめる・・・まちがいをしないように前もって注意する。教えさすとす

グアム

かつて世界は水しかなかく、その中を巨人プンタンと、妹のフウナが歩き回っていました。ある日のこと、プンタンは、自分の死後のことについてフウナに次のような遺言を残しておくことにしました。

5

自分の2つの目をそれぞれ太陽と月にする、眉で虹を作ること、背中中空を、からだでグアムの島を作ること、そして砂利から人間を作ること。
フウナは忠実に言いつけを守り、グアムの赤い土を海の水と混ぜて大きな岩も作りました。その岩を小さな石と砂利に割り、その砂利がグアムの人々になったということです。

6

- * 死後・・・自分がこの世からいなくなったあと
- * 遺言・・・自分が亡くなったときのために残しておく、誰かに伝えたい文章や言葉
- * 砂利・・・こまかい石の粒のこと
- * 忠実・・・まごころをこめて、いいつけをまもること

アボリジニーの創世神話

昔、太陽がなく、月と星だけがあつた。
人間は生まれる前で、鳥と獣たちの世界であつた。

動物たちのけんかの果てに空中に投げられた卵が割れて黄身が流れ出した。そして空中に積んであつた薪が炎をあげ、その光が下界を照らした。
動物たちは闇しか知らなかつたので、その明るさに驚いた。

空にいた精霊たちは照らされた地上のなんともいへぬ美しさに感動し、毎日火をたくことにした。
彼らはその合図として明けの明星を遣わした。それでも足りないと思ひ、大きな声で「グーア、グーア」と鳴き出すワライカワセミを夜明けの使者にした。

もし子どもたちがこの鳴き声を真似ると、罰としてよけいな歯が犬歯の上に生えてくる。

*創世・・・世界のはじまり。世界を初めてつくること

*下界・・・(天上からみた)地上の世界

*精霊・・・木、動物、石、自然や人がつくつたものひとつひとつに宿っているとされる超自然的な存在(霊的なもの)

*明けの明星・・・明け方に輝いて見える金星のこと。英語ではモーニングスターと言う

空とカタツムリ

空はどこまでも広く限りがなかった。この世界の誰もが、空より大きいものなどはない、と思っていたし、空自身そう考えていた。ところがある日、空は一匹の小さなカタツムリの繊細な角を、ちらつと見かけた。空はカタツムリがしゃべりたそうにしているのがわかった。そこで空は視線をカタツムリの上にとめて、彼の話に耳を傾けることにした。「空さん」とカタツムリは言った。「あなたはとても大きくて、どんな地平線でも水平線でも、軽く超えています。でも、自分より大きなものはこの世にいないなどとお考えになる前に、どうかちょっと私の話に耳を傾けてください。そうすれば、あなたよりも私のほうが大きいということをわかってくれるでしょう」。

それを聞いた空は驚いた。しかし、空は小さなカタツムリが特別な存在であることを思い出していた。

カタツムリのしよっている家には、螺旋のしるしがついている。螺旋はトロブリアンド諸島の人たちが「 Gum Gum」と呼んでいる中心点から出発している。 Gumから出発して、螺旋は外側に向かって広がり、さらにどんどん大きく広がっていった、とうとう空の大きさにまで広がり、最後はそれさえも超えて広がっていくのである。

空はカタツムリに言った。「そのとおりだね、小さなカタツムリさん。私はいまはじめて、自分よりも君のほうが大きいということに気がついたよ。そればかりじゃない。私は君が背中にしよっているしるしの持つ力のことまで理解したよ。螺旋は広がっていくばかりじゃなくて、 Gumに向かつて集中していった、宇宙のエネルギーを吸い込んでいるんだ。君はとってもすばらしいものを、背中にしよっているね」。

これを聞いたカタツムリはうれしくなった。「話を聞いてくれてありがとう、空さん。お礼に秘密を教えましょう。私が背中にしよっている家についているしるしは、五つのすぐれた特性をあらわしています。この特性を習得した人間たちにとって、空さん、あなたは努力の限界をしめしているのです」。

その日以来、さらに賢くさらに謙虚になった空は、トロブリアンド諸島の上に覆い被さりながら、クラの環の中を生きている人間たちを、見守り続けているのだった。

*螺旋・・・巻き貝の殻のようにぐるぐる巻いているもの

*謙虚・・・自分を偉いものと思わず、すなおに相手に学ぶ気持ちがあること

*クラ・・・パプア・ニューギニアのトロブリアンド諸島などの島に住む人たちが、物と物を交換し合うこと（交易）

にしたいへいようとうようこうかいしや
西太平洋の遠洋航海者 R・マリノフスキ

増田義郎訳

解説

クラと螺旋

中沢新一

430-431頁



占部 史人 (うらべ ふみと) プロフィール

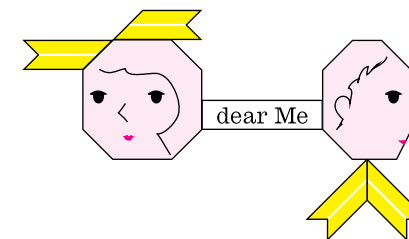
1984年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学大学院で美術を学ぶ。
 愛知県にあるお寺の息子として生まれ、僧侶としての教育を受けながら、アート作品を制作し発表してきた、めずらしいバックグラウンドを持つアーティスト。時間を経た素材や、使われなくなったものなどを使って、そこに新しいものをくわえることで、記憶や時間を旅するような作品を制作している。

作品は、お釈迦さま (ブツダ) のお話や考えがもとになっており、西洋の影響を受けたアートの中に、仏教の考え方が入ることで、日本や東洋に古くからある色々な考え方を思い起こさせてくれる。

2013年シャルジャ・ビエンナーレ (2013年シャルジャ、アラブ首長国連邦) にてビエンナーレ賞を受賞。近年では、茨城県にある高齢者施設で、お年寄りと一緒に、時を経たブリキの板を使いそれぞれの想いで の 物 の えが はばひろ そう ひと いっ 出の乗り物を描くワークショップをしたほか、幅広い層の人たちと一緒に作品を制作している。



[参考] GALLERY SIDE2 個展「蜜の流れる大地」 占部史人



空とカタツムリ
～島々の神話をもとにしたワークショップ～
2017年3月12日(日)
会場：星美ホーム サローネ
主催：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]
星の子キッズ
共催：日本財団
助成：アーツカウンシル東京
協力：GALLERY SIDE 2 素材協力：リキテックス

謝辞（敬称略、順不同）
星美ホームのみなさま、吉田シスター、立入聡先生、
山根智史、立入千東、杉本隆庸、ボランティアのみなさま

冊子
編集：占部史人、依田理花、川口茜
発行日：2017年3月12日
発行：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

